



浦島伝説

置かれた場所で咲きなさい！

前回好評でしたので、「読書の秋」第2弾。最近、本の売れ筋ランキング上位にある本です。4月に発売され、すでに60万部を超えています。著者の渡辺和子さんは、29歳でノートルダム修道女会に入会し、アメリカ留学後、36歳という若さで岡山県ノートルダム清心女子大学の学長に就任。現在、同学園の理事長を務められています。かつてマザー・テレサが来日した際に通訳を務めるなど多方面で活躍されています。

『“どんなところに置かれても、花を咲かせる心を持ち続けよう”。境遇を選ぶことはできないが、生き方を選ぶことはできる。「現在」というかけがえのない時間を精一杯生きよう』というメッセージとともに、下のような文章が掲載されています。

初めての土地、思いがけない役職、未経験の事柄の連続、それは私が当初考えていた修道生活とはあまりにもかけ離れていて、私はいつの間にか“くれない族”になっていました。「あいさつをしてくれない」こんなに苦勞しているのに「ねぎらってくれない」「わかってくれない」。自信を喪失し、修道院を出ようかとまで思いつめた私に、一人の宣教師が一つの短い英語の詩を渡してくれました。その詩の冒頭の一行それが「置かれたところで咲きなさい」という言葉だったのです。(中略)

私は変わりました。そうだ。置かれた場所に不平不満を持ち、他人の出方で幸せになったり不幸せになったりしては、私は環境の奴隷でしかない。人間として生まれたからには、どんなところに置かれても、そこで環境の主人となり自分の花を咲かせようと、決心することができました。それは「私が変わる」ことによるのみ可能でした。

いただいた詩は、「置かれたところで咲きなさい」の後に、こう書かれていました。「咲くということは、仕方がないと諦めることではありません。それは自分が笑顔で幸せに生き、周囲の人々も幸せにすることによって、神が、あなたをここにお植えになったのは間違いでなかったと証明することなのです」(中略)

どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために。

※『置かれた場所で咲きなさい』(渡辺和子著) から一部抜粋

私たちには、学級、部活動、家庭・・・という小さな社会の中で、いろいろなポジションが与えられています。まもなく迎える、生徒会役員選挙や合唱コンクールという行事においても、自分の果たすべき役割があるはず。自分一人だけでない社会(集団)の中で、どう生きていくかをしっかりと学んでおくことが、将来、大きな社会に出たときに必ず役に立ちます。あなたはこの秋、どんな花を咲かせようとしていますか。

大人も、子どもも・・・

最近、詫間中学校生徒の交通ルールやマナーがよくありません。「自分だけは事故にあわない」と思い込んでいる人も多いと思います。でも、事故は自分だけの問題ではありません。相手にケガをさせることもあります。そして、そのまま大人になってしまうと、もっともっと大きな事故にあう可能性があります。今、香川県は交通事故が多発しています。子どもも大人も、県民すべての人が意識していきたいものです。

交通死亡事故抑止緊急知事メッセージ

今、香川県は、交通死亡事故が多発し、県民の皆さんの安全で安心な暮らしが脅かされています。平成24年1月から9月までに既に49件の交通死亡事故が発生し、51人の尊い命が失われました。特に9月中は、11人もの方が亡くなられるという大変痛ましい状況にあります。

今年の交通死亡事故の特徴は、高齢者・交差点・夜間の事故に加え、飲酒運転やシートベルトの非着用、横断歩道上での事故が非常に多くなっています。

交通事故は、他人事だと思いませんか。「香川の交通マナーは悪い」という声を聞いたことはありませんか。交通事故を起こせば、自分だけでなく多くの人の人生を狂わせることになります。

県民の皆さん一人ひとりが、これ以上、交通事故を起こさないという強い気持ちを持って、交通ルールの順守と交通マナーを実践し、県民総ぐるみで「交通死亡事故ワースト県」の汚名を返上しましょう。

どうか交通安全に一層のご理解とご協力をお願いします。香川県知事 浜田恵造